



現代化 果菜批發市場及物流中心



臺北農產運銷股份有限公司

機電課 課長：林瑞芳

2023年08月09日



卸売市場推動食品流通基地

法律の概要

1 卸売市場法の改正

(1) 農林水産大臣は、次の事項を定めた卸売市場に関する基本方針を定める。
(第3条)

〔・業務の運営に関する事項 ・施設に関する事項 ・その他重要事項 〕

(2) 基本方針等に即し、生鮮食料品等の公正な取引の場として、①から⑥の共通の取引ルールを遵守し、公正・安定的に業務運営を行える卸売市場を、中央卸売市場又は地方卸売市場として農林水産大臣又は都道府県知事が認定・公表し、指導・検査監督する。(第4条から第14条まで)

① 売買取引の方法の公表

⑤ 取引条件の公表

② 差別的取扱いの禁止

⑥ 取引結果の公表

③ 受託拒否の禁止(中央卸売市場のみ)

⑦ その他の取引ルールの公表(※)

④ 代金決済ルールの策定・公表

※ 第三者販売の禁止、直荷引きの禁止、商物一致等。卸売市場ごとに、関係者の意見を聴くなど公正な手続を踏み、共通の取引ルールに反しない範囲において定めることができる。

(3) 国は、2(2)の食品等流通合理化計画に従って行われる中央卸売市場の整備に対し、予算の範囲内において、その費用の4/10以内を補助できる。(第16条)

日本農産卸売市場推動食品流通基地建設

推進食品流通基地建設

- 強化批發市場的流通功能，保障未來生鮮產品的穩定供應
- 通過數位化技術，與流通標準化，提高營運效率
- 以節省勞動力、並應對防災減災為目標
- 發展批發市場設施以作為幹線運輸、有機農產品、小批量需求、擴大出口等的基地

最先端技術等による 高付加価値なサービスの提供



多様な社会的役割の発揮



卸売市場推動食品流通基地

2 食品流通構造改善促進法の改正

- (1) 農林水産大臣は、次の事項を定めた食品等の流通の合理化に関する基本方針を定める。(第4条)
- ・ 流通の効率化
 - ・ 品質・衛生管理の高度化
 - ・ 情報通信技術等の利用
 - ・ 国内外の需要への対応
- (2) 農林水産大臣は、基本方針等に即し、食品等の流通の合理化を図る事業に関する計画を認定する。(第5条)
- (3) 認定を受けた者は、農林漁業成長産業化支援機構(A-FIVE)の出資等の支援を受けることができる。(第7条から第26条まで)
- (4) 農林水産大臣は、食品等の取引状況について定期的な調査を行い、当該調査の結果に基づき必要な措置を講じ、不公正な取引方法があると思料する場合には公正取引委員会に通知する。(第27条から第29条まで)

※上記の改正に伴い、題名を「食品等の流通の合理化及び取引の適正化に関する法律」に改める。

35 食品等流通持続化モデル総合対策事業

【令和5年度予算概算決定額 219（244）百万円】

<対策のポイント>

フィジカルインターネットの実現を見据え、食品等流通の合理化を図るため、農林水産物・食品の物流標準化に向けた検討を進めるとともに、標準化ガイドラインに準拠し、デジタル化・データ連携による業務の効率化と輸送コストの低減、コールドチェーンの整備などによる重点政策に対応した効率的なサプライチェーン・モデルを構築します。

<事業目標>

- 流通の合理化を進め、飲食料品卸売業における売上高に占める経費の割合を削減（10%〔2030年まで〕）
- 農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）

<事業の内容>

1. 農林水産物・食品の物流標準化事業

農林水産物・食品の物流標準化に向けて、青果物、花き、水産物等の品目ごとの関係者検討会を組織し、ガイドラインの策定に向けた検討会の運営と調査及び実証を行います。

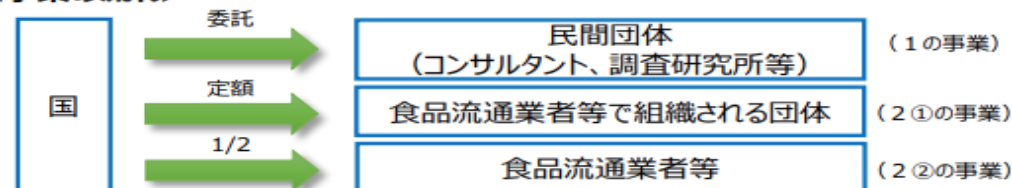
2. デジタル化・データ連携による効率的な食品流通モデルの構築

コードを標準化し、デジタル化・データ連携することで、サプライチェーンの全ての者が効率的な流通にアクセス可能となり、全体の業務を効率化し、コスト低減を実現するモデルを構築します。

- ① 国際的な標準規格等と調和した、コードの標準化、システム間データ連携による受発注・トレーサビリティの実証等の取組モデルを支援します。
- ② ①の取組と合わせて、コード標準化、データ連携による受発注・トレーサビリティの実証等の効果を最大限に活用する観点から、自動化技術の導入、コールドチェーンの確保等の取組モデルを支援します。

特に、みどりの食料システム戦略、農林水産物・食品の輸出促進、食料品アクセス問題に対応する取組モデルについて重点的に支援します。

<事業の流れ>



<事業イメージ>

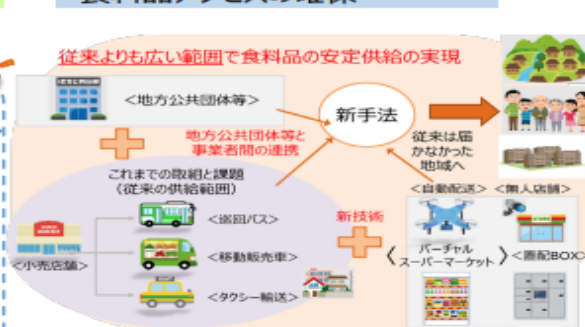
・輸出手続・データ連携基盤の構築による輸出拡大



・需要予測に基づく出荷調整による事業系食品ロスの削減



・ラストワンマイル配送による食料品アクセスの確保



新事業創出



32 新事業創出・食品産業課題解決に向けた支援

【令和5年度予算概算決定額 112（166）百万円】

<対策のポイント>

食品産業が直面する課題の解決やフードテック等の新技術の活用による新事業の創出に向け、プラットフォームの運営による課題解決策の検討及び知見の共有、実態把握の調査や実証の取組の支援を行います。

<政策目標>

- 食品製造業の労働生産性の3割向上（2018年比〔2030年まで〕）
- 農林水産物・食品の輸出額の拡大（2兆円〔2025年まで〕、5兆円〔2030年まで〕）等

<事業の内容>

1. 新事業創出・食品産業課題解決プラットフォーム運営

食品産業界、有識者、行政等が参画する各プラットフォームの運営により、食品産業に関する共通課題の解決策の検討、知見の横展開を行います。

2. フードテックビジネス実証事業

食品事業者等による、フードテック等を活用したビジネスモデルの実証や、実証の成果の横展開を図るための情報発信等の取組を支援します。

3. 食品事業者等による栄養改善ビジネスの国際展開支援

栄養改善事業推進プラットフォーム（NJPPP）を通じた栄養改善ビジネスに関する調査やそれに基づく事業化プロセスの実証、NJPPPと国際機関との連携強化、国内外の栄養に関する情報収集・発信を支援します。

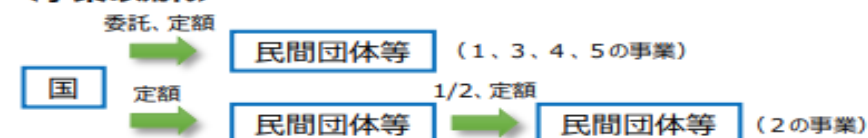
4. JASの活用・制定推進調査委託事業

JASの活用による優良事例を含むマニュアルを作成・活用し、JASを通じて規格・認証の重要性を認識・普及できる人材の育成を行うとともに、新たなJASの制定につながる取組等を支援します。

5. 加工食品の国際標準化事業

食品添加物等の表示規制の調査等を支援します。

<事業の流れ>



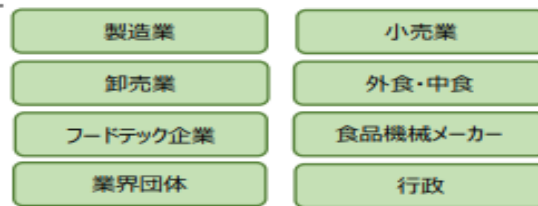
<事業イメージ>

関係者が参画するプラットフォームの運営

【実施する内容】

- 研究会等による課題の整理や解決策の議論
例：有識者を交えた業界ガイドラインの検討
食品企業が抱える共通課題に関するヒアリング
- セミナー等による先進事例や知見の横展開
例：フードテックの実証事例の情報発信
サプライチェーン全体で取り組むべき食品ロス削減等の課題に対する理解醸成

【食に関する幅広い事業者、団体等が参画】



調査の取組例

JASに係る人材育成に向けた優良事例の収集・マニュアル作成



食品添加物等の表示規制の調査等

実証の取組例

フードテックを活用したビジネスモデルの実証



3Dフードプリンターを活用した介護食



発芽大豆素材を用いたタコス



昆虫を活用した国産飼料

【お問い合わせ先】

（1、2、3の事業）大臣官房新事業・食品産業部企画グループ（03-6744-2065）
（4、5の事業）大臣官房新事業・食品産業部食品製造課（03-6744-7180）

大果大阪青果(株)低温冷蔵庫施設の概要)簡介

【竣工】2021年3月8日



大阪府中央卸売市場 大果大阪青果(株)低温冷蔵庫施設の概要>

【名称】大果大阪青果(株)低温冷蔵庫 (D-1/D-2/D-3/D-4)

【所在地】大阪府茨木市宮島 大阪府中央卸売市場

【延べ床面積】D-1 約134.1m²/D-2 約199.7m²/D-3 約138.9m²/D-4 約129.9m²

【竣工】2021年3月8日 【稼働】2021年3月12日

弊社では大阪府中央卸売市場本場果実売場内に建設を進めてきました保冷施設がこのたび完成しましたのでお知らせします。

多様な流通の発展に伴い、卸売市場における取扱数量は減少し市場経由率は低下傾向にあります。また昨今では「攻めの農林水産業」が謳われ「流通構造の『見える化』環境整備事業」など流通体系の大きな変化が見込まれるタイミングにあります。その中におきまして弊社では鮮度管理・品質保持の向上を図るべく自己資金で投資を進め、コールドチェーン基盤を強化します。

今後も生産者・実需者のニーズに対応できるようハード・ソフト両面で体制の強化に取り組んで参ります。

京果(株)低温冷蔵庫施設の（水産棟）概要

工] 2021年3月8日

【竣

三菱重工ワンストップソリューション

例：冷凍・冷蔵倉庫

初期段階からA.B.Cのご提案が可能

● 冷凍・冷蔵倉庫では簡易ツールを使った機器選定シミュレーションが可能 ※独自開発



● 太陽光発電システム提案では設置規模+電力シミュレーションが可能



コンセプト

基本計画

CAD設計

基本設計

実施設計

調達

三菱重工グループSCM力

物流

建設ロジスティクス

施工

お引渡し

※建設ロジスティクス構想

● 3Dデザインでの素早いコンセプト提案 ※例：物流倉庫



EPLC情報連携による建設ロジスティクスの付加価値向上

※EPLC：Engineering, Procurement, Logistics and Construction



京果新建工程新鮮で安全・安心な食材の一層の品揃えに努めます

基本設計受託者
株式会社 安井建築設計事務所

外壁で覆われた閉鎖型施設とすることで、外気や小動物等の食品の安全に係るリスク要因を可能な限り排除する。

新青果棟の概要
(1) まちと共存する「都市型卸売市場」



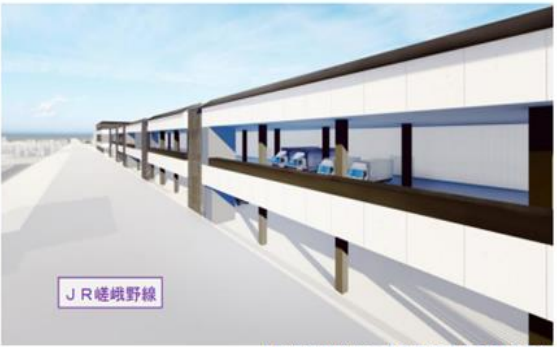
五条通から新青果棟の北側を臨む

京都市中央市場は、昭和2年に日本初の卸売市場として開場し、永きにわたり市民をはじめとする消費者の食生活や生産者、「京の食文化」を支えています。整備に当たっては、衛生管理の向上や物流の効率化等により、市場機能を飛躍的に向上させるとともに、先行して整備を進めている新水産棟と一体となって、市場ならではの魅力を提供することにより、「京都駅西部エリア」をはじめとする地域の活性化や「和食」に代表される食文化の振興、更にはSDGsの実現等に寄与していきます。

建築面積	約28,200㎡
延べ床面積	約83,800㎡
建物高さ	約25.5m（地上5階建て）
概算工事費	約300億円



JR嵯峨野線から新青果棟の南東側を臨む



JR嵯峨野線から新青果棟の北東側を臨む

新水産棟との接続デッキ



京都リサーチパークから新青果棟の北西側を臨む



花屋町通から新青果棟の南西側を臨む

壁面に変化をもたせることで
圧迫感を与えない外観

新青果棟へのトラック入場口

「京の食文化ミュージアムあじわい館」



見学エリアからせり場を臨む



プロムナード

○市民や観光客、修学旅行生等が安全に市場を見学できる「見学エリア」や、楽しく回遊できる「プロムナード」を設置します。
○新水産棟見学エリアや「京の食文化ミュージアムあじわい館」とも連携し、「和食」や「京の食文化」を支える京都市中央市場の役割や機能等を広く知っていただくことができる施設とします。

災害時の対応

(4) 災害時の対応

○現在整備中の新水産棟は、災害発生時においても市場機能を維持するため、非常用発電や太陽光発電設備、水道の代替となる地下水処理設備を有しています。新青果棟においても同様に、非常用発電や太陽光発電設備を設置することで、停電時に備えるとともに、新水産棟の地下水処理設備を相互に有効活用し、断水時における業務の継続を確保します。
○また、震度6～7程度の地震に対しても、倒壊、または崩壊する危険性が低いと認められる耐震性能の1.25倍の基準を確保するなど、市場のレジリエンスを強化します。

(5) 環境への配慮

○太陽光発電やBEMS※、LEDライト、高効率機器の採用等により、環境負荷を最大限低減し、市場の省エネルギー・省コスト化を進めます。

※Building Energy Management Systemの略で、ビル内で使用する電力の使用量などを計測し、見える化を図るとともに、空調や照明設備等を制御するエネルギー管理システム



地下水処理設備（新水産棟）



太陽光発電パネル（新水産棟）

京果新建工程：品質・衛生管理水準の更なる向上と物流・商流の効率化を目指します

閉鎖型施設内の温度管理を徹底し，入荷から出荷に至るまでのコールドチェーンを確立する。

3 新青果棟の主な特徴 (1) 品質管理の向上



1階卸売場（荷置場、遠地・果実せり場）



2階卸売場（近郷せり場）



2階仲卸店舗（遠地・果実）



2階仲卸店舗（近郷）

- 外壁で覆われた閉鎖型施設とすることで，外気や小動物等の食品の安全に係るリスク要因を可能な限り排除します。
- 閉鎖型施設内の温度管理を徹底し，入荷から出荷に至るまでのコールドチェーンを確立します。

内装材に市内産木材を使用した温かみのある空間とする。

(3) 市場機能や食文化の発信



エントランスホール

- 買出人や来場者を迎え入れるエントランスホールは，内装材に市内産木材を使用した温かみのある空間とします。

2. 「食」や「食文化」に関する情報の発信を進めている事例

○ 中央卸売市場においては、生鮮食料品等の需要拡大も視野に、「食」や「日本食文化」に関する情報の提供や、食育の場として社会見学の受け入れや料理教室の開催等に積極的に取り組んでいる市場がある。

■ 小中学生を対象にした食育の取組

■ (一財)水産物市場改善協会 (東京都中央卸売市場築地市場)

【取組概要】

- 水産物部卸売業者など市場関係者で構成される(一財)水産物市場改善協会では、築地市場から発信する水産物の情報を中心に、H18年度から小・中学生の親子を対象とした食育事業を実施。
- H25年度には、都内の小中学校21校において、「魚の骨」をテーマに魚を丸ごと理解してもらい、魚の素晴らしさを知ってもらう出前授業を実施するとともに、旬の魚を使った料理教室を実施。
- 築地食育プランの一環で、小・中学生の親子を対象とした「築地食育クラブ」を立ち上げ、旬の水産物・青果物の情報を掲載したメールマガジンを月1回配信するとともに、同市場内で夏休みセミナーや料理教室を開催。

【効果】

- 魚食の重要性や旬に対する小・中学生の理解を深めるとともに、命の大切さについても再認識する機会を提供。

■ 「食」や「食文化」に関する情報発信

■ 京都市中央卸売市場(開設者) 京都市中央卸売市場協会(任意団体)

【取組概要】

- 「食」や「食文化」に関する情報発信といった事業の枠組みは開設者が定め、事業の実務は卸・仲卸・関連事業者の各組合で構成する京都市中央卸売市場協会が担う。
- 開設者は京都市中央卸売市場第一市場を「京の食文化及び食育の拠点」と位置づけ、「食」のあり方の提案や食育を積極的に推進。
- その一環として、H16年度に消費者を対象に生産者との交流や講演会、料理教室等を通じて、市場関係者とともに「食」や「食文化」を考え、市場流通食材への知識を深めてもらうことを目的に「食の海援隊・陸援隊」を発足。
- 本事業は、開設者と市場協会が協力して行っており、食材や食に対する市場関係者の知識・情報を最大限活用。

【効果】

- これまでに産地見学を含む産地支援・交流活動、講演会、食材選び方教室、子供料理教室等を開催。参加者は延べ6,000名以上にのぼり、参加者の評価も高い。
- 現在の会員数は700名超。今後、若年層を取り込むための取組を進めて行く予定。

5. 品揃えの充実に向けた取組事例

○ 消費者や実需者の多様なニーズに対応するため、産地との連携や、地域特産物を活用した商品の開発・ブランド化等を通じて特色ある商品の品揃えを充実し、販売力を強化している事例がある。

■ 産地との連携を通じた品揃えの充実

■ 京都青果合同(株)(京都市中央卸売市場卸売業者)

【取組概要】

- S63年に「京野菜を育てる会」を発足させ、20年間行政、研究者、消費者、生産者団体等とともに産地と連携し、京野菜のブランド化に向けた取組を展開。
- 低温管理が可能な近郷(京都府及び滋賀県産)野菜専用の卸売場を設置。また、場内には近郷野菜を主に取り扱う仲卸業者も存在。
- 自社ホームページで、各京野菜の出荷時期、栄養成分、栽培の歴史、レシピを紹介するなど京野菜を広くPR。
- 京野菜のブランド化に向けて、市場協会で実施する産地との交流会や勉強会等への参画など消費者と産地をつなぐ活動を推進。
- 京野菜の産地振興の一環として、京都府亀岡市内の自社農場において、種苗会社と連携し、地域に適した新たな品目導入の実証を実施。
- 今後の展開として、肉料理と相性の良い辛味大根やにんにくの試作など、京都市食肉市場で取り扱う京都牛とのコラボレーションも検討。

【効果】

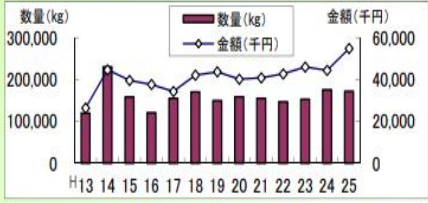
- 京都府及び滋賀県産野菜の生産振興に寄与し、市場流通する近郷野菜において高いシェアを保有。

■ 丸果秋田県青果(株)(秋田市公設地方卸売市場卸売業者)

【取組概要】

- 地元生産者が当日朝に収穫した農産物が、その日のうちに地元量販店で販売可能となるよう、グループ会社が庭先集荷の上、午後1時に市場で卸売を行い、夕方には地元スーパーの店頭で陳列。
- 社員による農家回りを行い、農協への出荷数量に満たない青果物の集荷等により集荷力を向上。
- 農家に対して、資材や種子の選定等の栽培指導、出荷・調製に関する講習会等を開催。

【効果】



農糧署冷鏈專區布置



農糧署冷鏈專區布置





現代化果菜批發市場及物流中心

108年

109年

110年

111年

農產冷鏈保新鮮
蔬果質優價更好

建立全國批發市場
冷鏈示範點

設備更新、智慧節能
有效節電

分級包裝標準化
棧板化、國際化

新式摺疊籃
降低包裝成本

拓展多元行銷通路
溯源食材安心GO

提高好貨占比

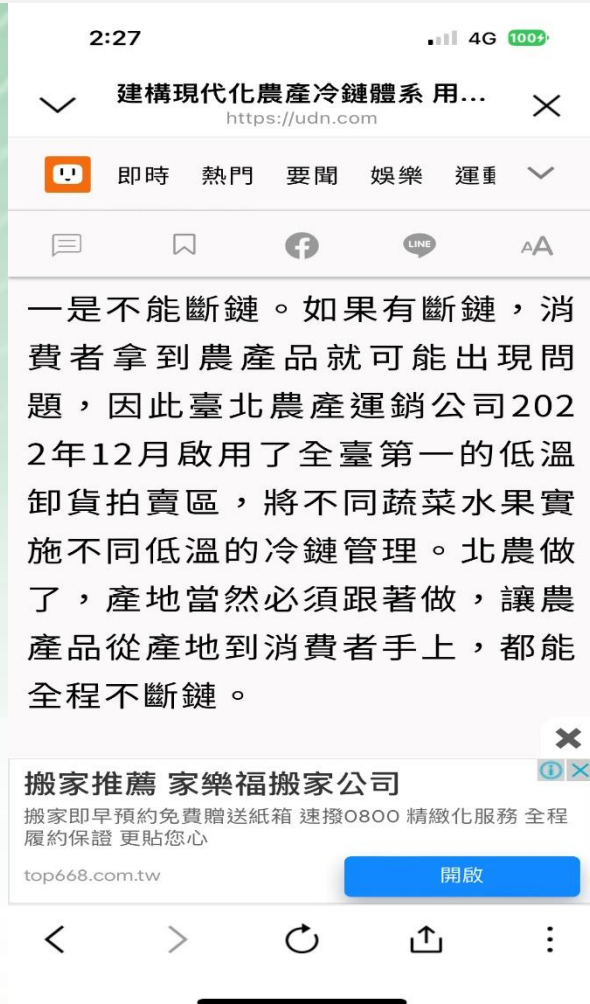
把關蔬果食安

AI 智慧分析
產銷履歷消費需求

拓展行銷通路



臺北農產運銷股份有限公司
TAIPEI AGRICULTURAL PRODUCTS MARKETING CO., LTD.



CONTENT

1

計畫主旨與目標

完善臺灣蔬果冷鏈最後一哩路



2

111年規劃施工期程項目

第一批發市場冷鏈設施建置
第二批發市場冷鏈設施建置
導入能源管理系統



3

效益

保新鮮 省能源 減碳排



農產冷鏈保新鮮蔬果質優價更好

分級包裝標準化、棧板化、國際化



提升運銷效率

包裝規格標準化

分級清楚
規格棧板化

省工搬運棧板化

機械化運卸
提高運銷效率

物流運輸國際化

符合國際標準規格
暢通內外銷運輸

措施一：制定棧板化容器規格

修訂蔬果分級包裝手冊
制定棧板化容器規格

每箱蔬果疊放
層數降低

去除多餘外葉
(殼)

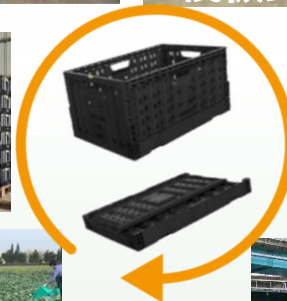
長寬尺寸符合
棧板最適排列

物流棧板化、
機械化



措施二：循環使用新式摺疊籃

推動新式摺疊籃 + 採後預冷 + 冷藏車運輸
+ 棧板卸貨 + 低溫卸貨拍賣區 + 回收站
完善臺灣蔬果冷鏈供應之循環系統



農產冷鏈保新鮮蔬果質優價更好

新式摺疊籃降低包裝成本



循環使用機制





目標年替代3,500萬個紙箱

推動階段



第一階段

- 與13家蔬果供應單位合作，其中7家短期葉菜類供應單位占市場供應量8成。
- 開發適合我國產地集貨型態之摺疊籃

第二階段

- 擴增合作供應單位
112年擴大導入蔬果品項 (甘藍、芭樂、柳橙、香蕉等)
- 開發不同蔬果可共用摺疊籃

預期 政策成效

1. 北農每日到貨**17**萬件，預估導入**11**萬件，年估計可替代**3,500**萬個紙箱。
2. 使用摺疊籃比紙箱每只便宜**10~30**元，降低農民包裝成本**50%**，節省約**7**億元。



拓展多元行銷通路 溯源食材安心GO
把關蔬果食安

質譜化學快檢
平均每件僅需20分鐘

質譜化學快檢+實名制
全國首創結合應用



已建置3部質譜儀



39,036件
批市系統



6,161件
校園午餐



10,025件
營業系統



7,400件
代客檢驗

質譜化學
快檢
把關

累計檢驗已
逾6萬件

拓展行銷通路

供應校園午餐有機食材



111年1-12月供應校園午餐：有機蔬菜 1,224.6公噸、有機米 453.7公噸



111年規劃施工期程項目

批發市場低溫冷鏈設施建置
果菜物流中心冷藏機組更新
導入能源管理系統

農產冷鏈保新鮮蔬果質優價更好 建立全國批發市場冷鏈示範點

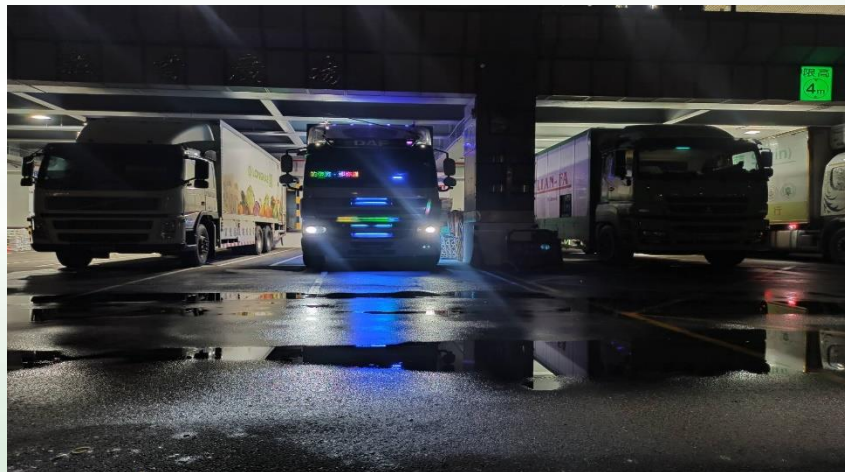
二市場低溫卸貨碼頭 111年04月01日正式啟用



低溫冷鏈卸貨碼頭
氣密式門封，防止冷氣外洩



購置堆高機、拖板車
便利推動棧板化作業



低溫物流車
維持全程冷鏈



低溫暫存區，冷鏈不斷鏈
保持蔬果鮮度

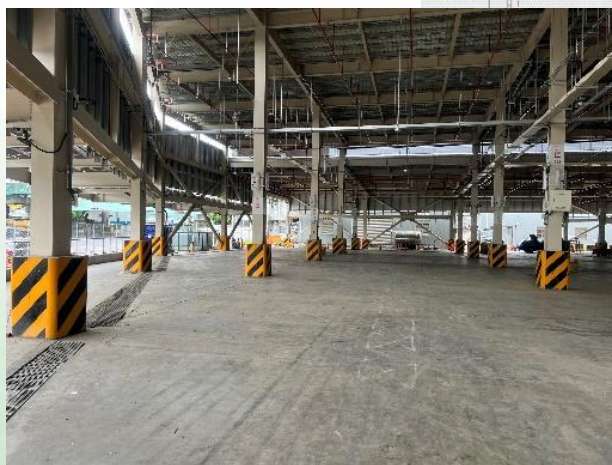
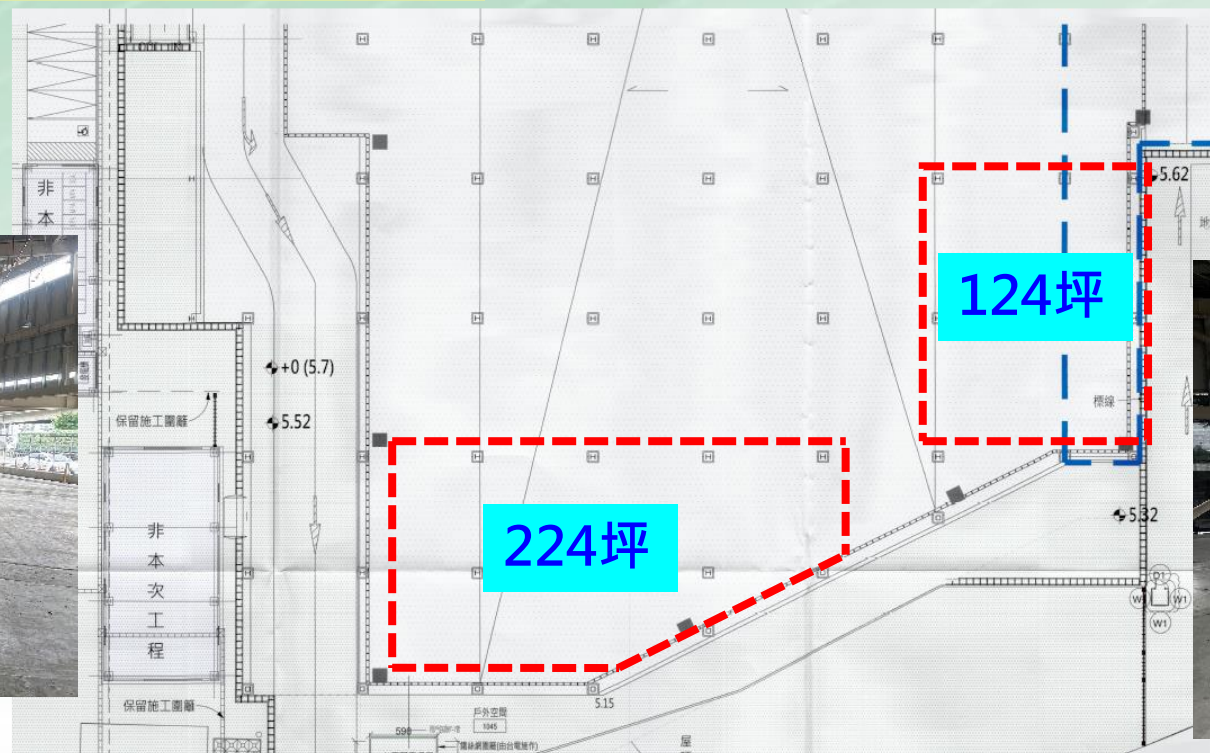


111年施工期程項目

批發市場低溫冷鏈設施建置



第一市場施工前



111年施工期程項目

批發市場低溫冷鏈設施建置

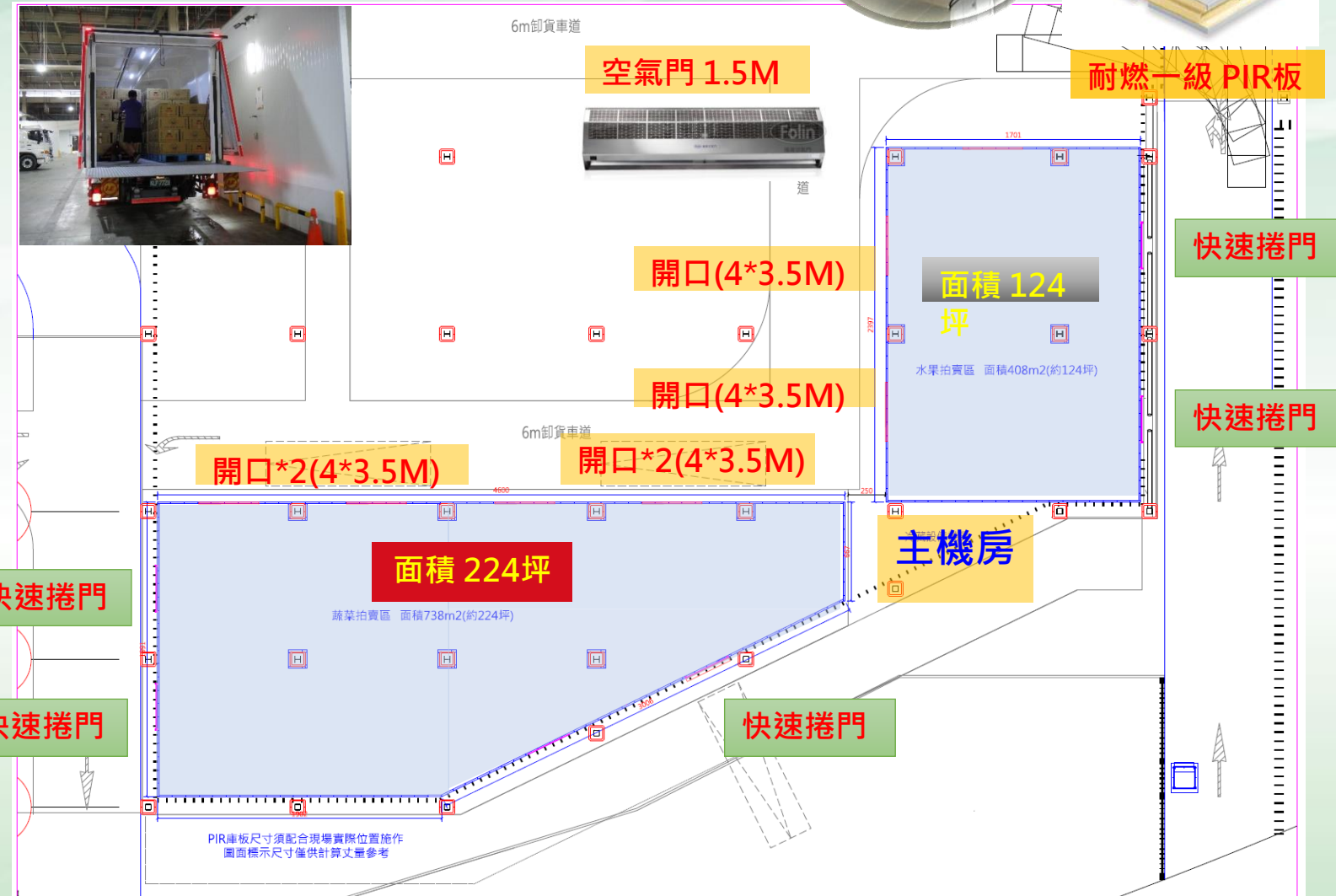


第一市低溫冷鏈配置圖

111年10月11日正式啟用



棧板化作業結合低溫卸貨區，
確保蔬果品質



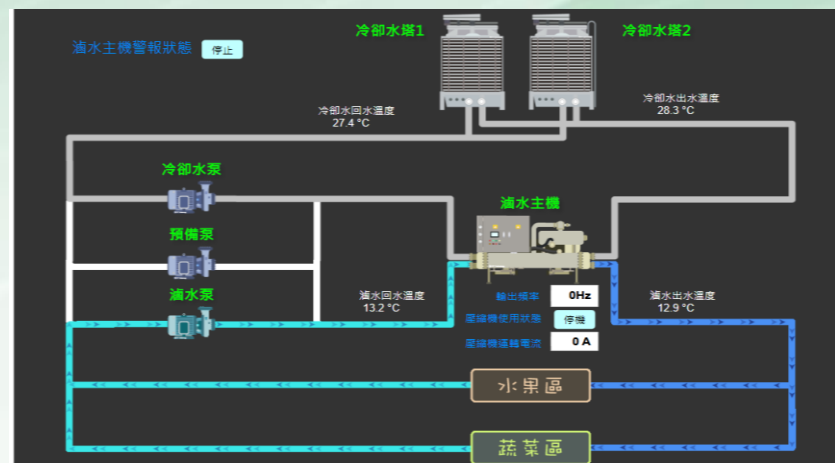
完善臺灣蔬果冷鏈最後一哩路 建立全國批發市場冷鏈示範點



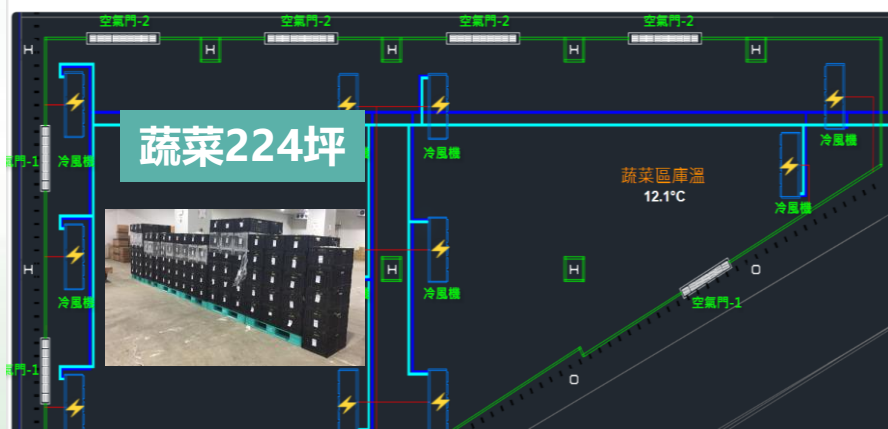
第一市場低溫卸貨拍賣區 維持15°C~18°C



整潔明亮場域



即時能源管理系統



全場域冷鏈環境監測



全場域冷鏈環境監測

合計：348坪



111年施工期程項目

批發市場低溫冷鏈設施建置

第二市場低溫冷鏈配置圖



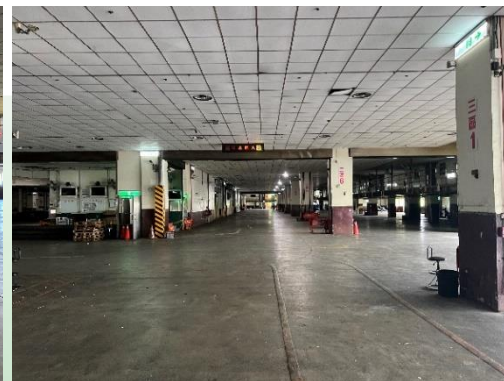
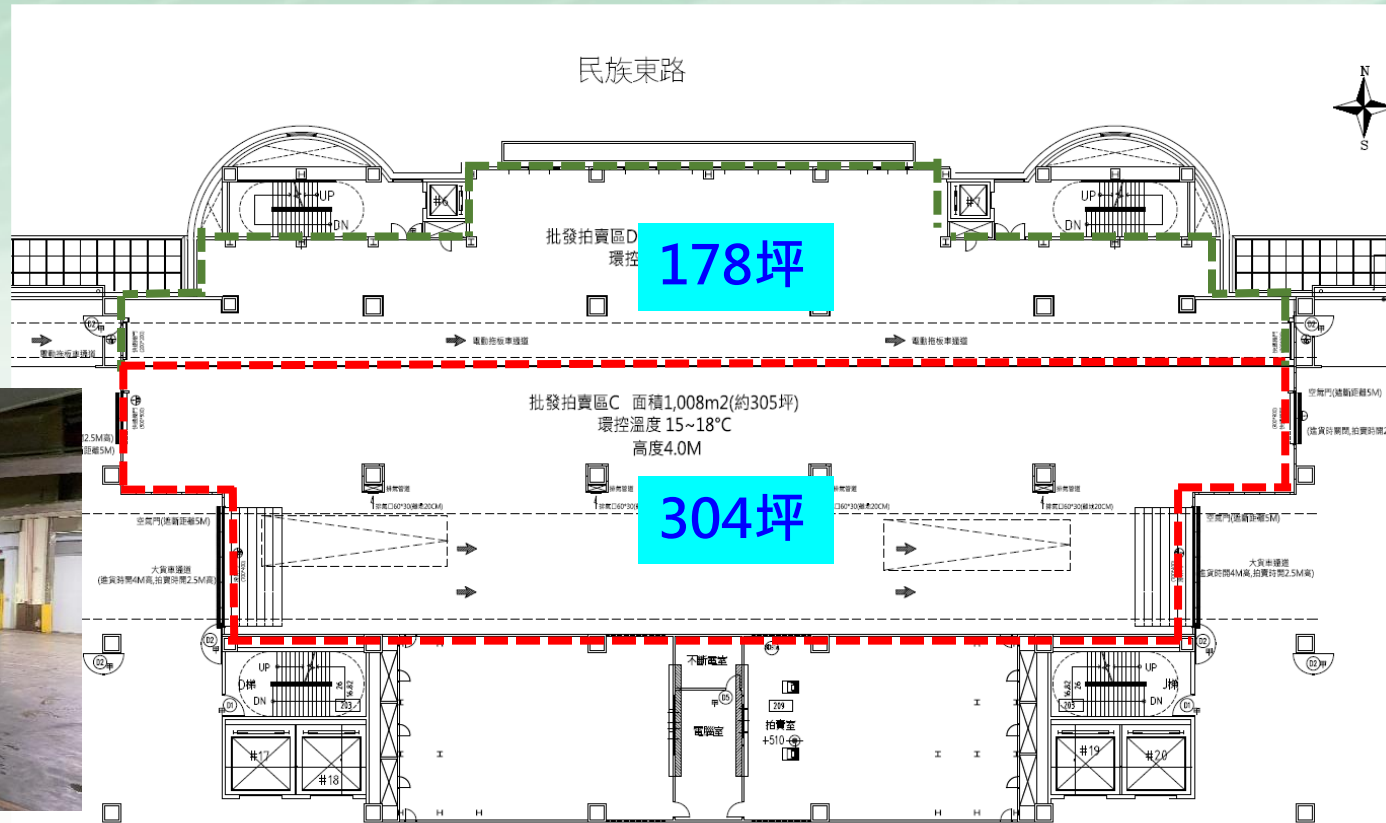
111年施工期程項目

批發市場低溫冷鏈設施建置

111年11月04日正式啟用



第二市場施工前



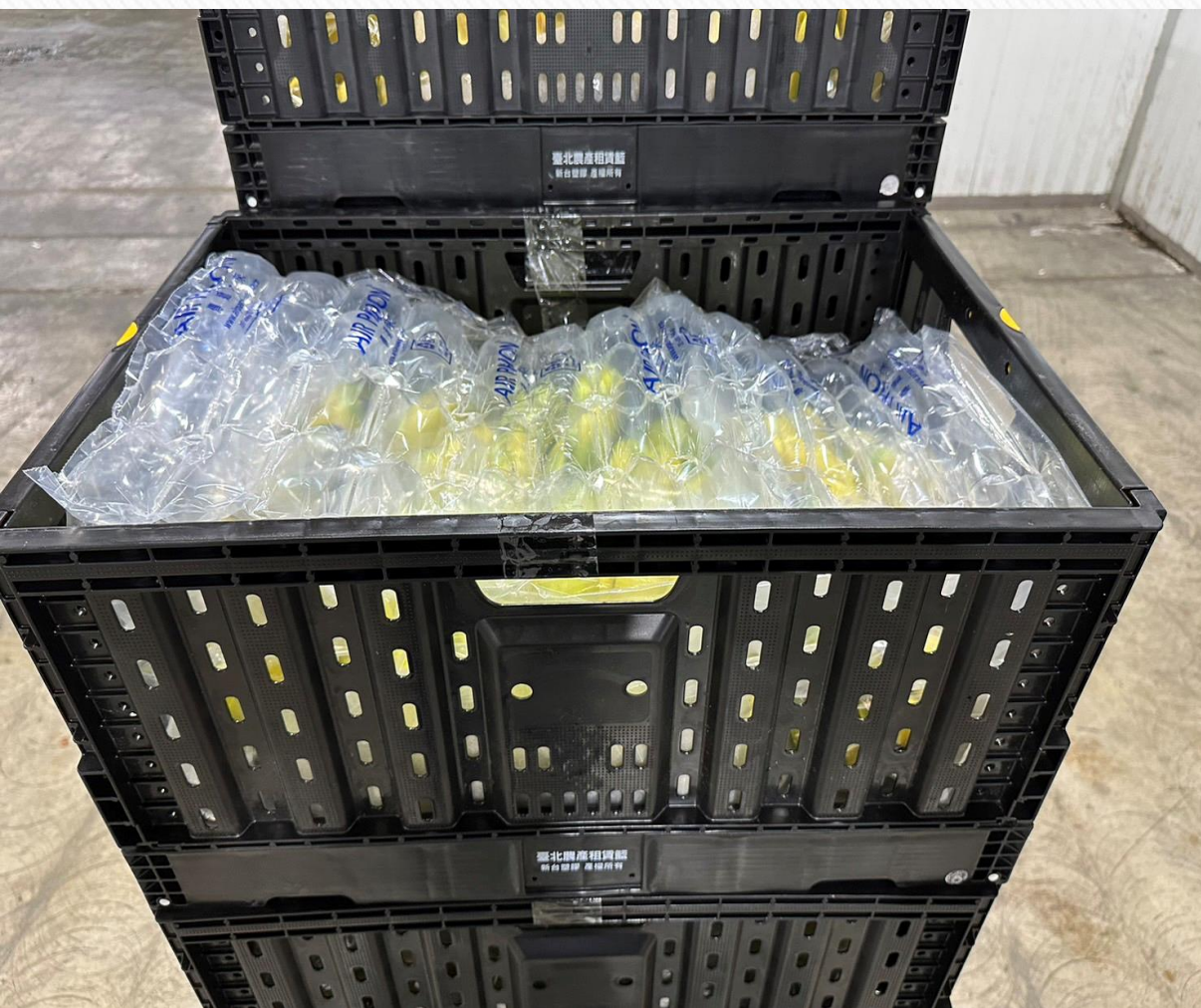


111年施工期程項目

批發市場低溫冷鏈設施建置

第二市場低溫冷鏈配置圖







導入「TPCEMS* -AIoT能源管理系統」 發揮批發市場低溫冷鏈物流體系最佳效能

智慧
節能



建置第一、二批發市場低溫冷鏈物流體系，用電最佳化管理與零批場攤位用水AIoT智慧水表管理系統，配合政府推動計畫性減少尖峰用電措施，參與「聯合群組需量競價」「彈性夜減二小」「日減二小時」計劃案，期盼與國人攜手減少電能消耗、提升能源使用效率、縮短電力尖離峰差距。

有效
保鮮



導入物聯網製冷設備資訊化管理有效監控能源使用效率，提升農產品蔬果新鮮品質，降低損耗及穩定品質提高農民收益。



效益

保新鮮 省能源 減碳排



- 完成第一、二果菜批發市場低溫卸貨區，銜接全國蔬果冷鏈物流系統，建立批發拍賣友善的工作場域，維持進場蔬果新鮮度，提升蔬果品質、拍賣價格及農民收益。



- **批發市場**：拍賣場冷鏈物流區域全程保持 15°C 至 18°C ，導入機械化運輸設備，提升物流效率，保持蔬果新鮮度。
- **果菜物流中心**：更新製冷系統設備，維持蔬果新鮮度，減少二市物流包裝中心蔬果損耗及銷售通路退貨情形。



- 宣導供應單位做好採收後之預冷作業，採用塑膠籃包裝、並以冷藏車運送蔬果至批發市場低溫卸貨區，再由採購業者繳還至回收站，共同打造包裝容器循環使用系統。

第一市場改建-主體市場規劃設計藍圖



臺北農產運銷（股）公司

- 1.第一市場改建後，主要以8部貨梯、2座棧板輸送機及2座雙斜坡道貫穿整棟形成垂直物流動線，另2樓以引道銜接至水源快速道路，發揮批發市場快速集散之功能。
- 2.成功爭取設置15,000 m^2 冷藏庫、9,850 m^2 果菜包裝中心及截切場、6,000 m^2 低溫卸貨區等農產品冷鏈物流相關設備及設施。

2F主要設置拍賣場
9420 m^2 、冷藏庫
2,782 m^2 、低溫卸貨
區6,000 m^2

1F主要設置12,865
 m^2 拍賣場及20,182
 m^2 零批場

B1主要設置冷藏庫
12,332 m^2 、停車場、
垃圾集中場

魚產

農產

以蜿蜒步道串聯2樓
以上綠化屋頂，形
成一幅美麗的空中
花園。

5F全區設置採購車
停車場

4F主要成功爭取設
置9,850 m^2 果菜包裝
中心及蔬菜截切場，
其餘為停車場

2F引道銜接水源快
速道路

3F主要設置辦公區
及電動車停車充電
區





謝謝您的聆聽

THANK YOU FOR LISTENING

聯絡方式

Email: 021910@tapmc.com.tw

02-25161019-分機1016